

## 『診療放射線技師 ブルー・ノート 基礎編 3rd edition』 正誤表

『診療放射線技師 ブルー・ノート 基礎編 3rd edition』(2012年2月10日第3版第1刷, 2013年3月10日第3版第2刷)に誤りがありました。ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

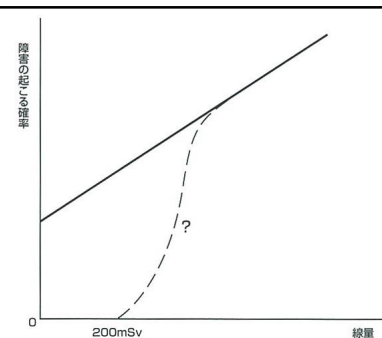
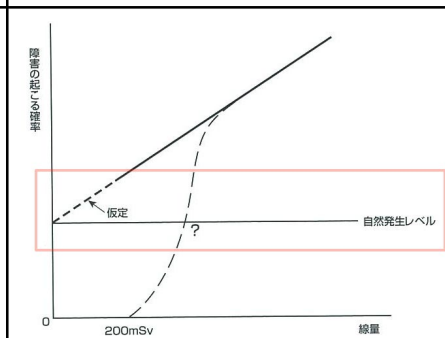
### ◆第3版第2刷

(最終更新日: 2013年6月11日)

ページ	該当箇所	誤	正
p. 320	原子核の構造・分類 1行目	陽子 (proton) {3個のクォーク (u <u>nd</u> )}	陽子 (photon) {3個のクォーク (u <u>ud</u> )}

### ◆第3版第1刷

(最終更新日: 2013年6月11日)

ページ	該当箇所	誤	正
p. 123	下から10行目	好中球と同様な走化能と貪食能を有するが殺菌能は劣る。アレルギー病変と関連が深いことが知られている。	アレルギー物質の侵入に対してアレルギー反応を起こす。
p. 153	TAP &TAP下から2行目	慢性関節リウマチ	関節リウマチ
p. 180	豆知識 最後に追加		●ソマトスタチンは、膵臓のランゲルハンス島から分泌されることで有名であるが、視床下部や消化管の内分泌細胞からも分泌される。
p. 182	補足 下から3行目	ラン <u>ケ</u> ルハンス島	ラン <u>ゲ</u> ルハンス島
p. 291	図31		
p. 292	表4 皮膚癌の1行目	放射 <u>線</u> 核種	放射 <u>性</u> 核種
p. 299	補足 最後の行	R=0.004 <u>5</u> cm	R=0.004 <u>3</u> cm
p. 312	表3 4段目左	$\pi^{\pm 0}$ 中間子	$\pi^0$ 中間子
p. 317	不確定原理の式	$\Delta x \Delta p \geq \hbar, = \frac{h}{2\pi}$	$\Delta x \Delta p \geq \hbar, \hbar = \frac{h}{2\pi}$
p. 320	原子核の構造・分類 1行目	陽子 (proton) {3個のクォーク	陽子 (photon) {3個のクォーク ( <u>uud</u> )}
p. 320	原子核の構造・分類 1行目	中性子 (neutron) {3個のクォーク	中性子 (neutron) {3個のクォーク ( <u>udd</u> )}
p. 370	TAP &TAP 6行目	●電流 <i>I</i> : 電流相互間に働く力 <i>F<sub>d</sub></i> [ <b>N</b> ]	●電流 <i>I</i> : 電流相互間に働く力 <i>F<sub>d</sub></i> [ <b>N/m</b> ]
p. 371	図18	電磁力 <i>F<sub>m</sub></i> [ <b>N</b> ]	電磁力 <i>F<sub>d</sub></i> [ <b>N/m</b> ]

ページ	該当箇所	誤	正
p. 390	自己インダクタンス (L) 回路 1行目	正弦波電流	正弦波 <b>交流</b> 電流
p. 462	用語アラカルト ミルキング	放射平衡を利用して、親核種から生成する娘核種をくり返して分離する操作。	放射平衡を利用して、 <b>半減期の長い</b> 親核種から生成する <b>半減期の短い</b> 娘核種をくり返して分離する操作。
p. 471	下から3行目	$f$ は粒子の線束密度 [ $\text{cm}^{-2}\text{s}^{-1}$ ]	$f$ は粒子の線束密度 ( <b>粒子フルエンス率</b> ) [ $\text{cm}^{-2}\text{s}^{-1}$ ]
p. 490	ホットアトム法	②標識位置を特定できない。 <b>すなわち、比放射能の高い製品は得られない。</b>	②標識位置を特定できない。 ③ <b>比放射能の高いものが得られる。</b>
p. 490	左欄外に追加		<b>【注意】過去の国家試験では「反跳合成法は比放射能の高いものは得にくい」と出題されている。</b>
p. 490	下から4行目	● <b>グリニャール法</b> グリニャール試薬を用いた標識法。例えばグリニャール試薬と $^{14}\text{CO}_2$ の反応で $^{14}\text{C}$ 標識カルボン酸が、 $\text{H}_2\text{O}$ で加水分解すると $^3\text{H}$ 標識炭化水素が生成する。	● <b>グリニャール試薬を用いた標識法</b> ① <b>グリニャール反応</b> ：放射性炭素の二酸化炭素との反応により放射性炭素標識カルボン酸が生成する。 ② <b>加水分解</b> ：トリチウム水による加水分解で、水素 ( $^3\text{H}$ ) 標識炭化水素が生成する。
p. 505	断面積 1行目	1個当たりに <b>作用を起こす確率。</b>	1個当たりに <b>起こした相互作用の平均数。</b>
p. 505	断面積の式	$\sigma = \frac{P}{\Phi} [\text{m}^2]$ $P$ ：作用を起こす確率、 $\Phi$ ：粒子フルエンス [ $\text{m}^{-2}$ ]	$\sigma = \frac{N}{\Phi} [\text{m}^2]$ $N$ ：起こした相互作用の平均数、 $\Phi$ ：粒子フルエンス [ $\text{m}^{-2}$ ]
p. 506	線エネルギー付与の式	$L_{\Delta} = \left( \frac{dE}{dt} \right)_{\Delta} [\text{J} \cdot \text{m}^{-1}]$	$L_{\Delta} = \frac{dE_{\Delta}}{dt} [\text{J} \cdot \text{m}^{-1}]$
p. 507	照射線量	単位質量当たりの <b>空気中</b> で光子によって放出された陽・陰電子すべてが <b>空気中</b> で停止するまでに <b>空気中</b> で発生させた正負どちらかの	単位質量当たりの <b>乾燥空気中</b> で光子によって放出された陽・陰電子すべてが <b>乾燥空気中</b> で停止するまでに <b>空気中</b> で発生させた正負どちらかの
p. 508	放射能の式	$A = \frac{dN}{dt} = \lambda \cdot N [\text{s}^{-1}]$ 特別名称：Bq	$A = \frac{dN}{dt} = \lambda \cdot N [\text{s}^{-1}]$ 特別名称：Bq
p. 530	TAP & TAP 下から4行目	<b>100</b> $\mu\text{g} \sim 10\text{Gy}$	<b>10</b> $\mu\text{g} \sim 10\text{Gy}$
p. 531	表4 OSL線量計の2段目	<b>100</b> $\mu\text{g} \sim 10\text{Gy}$	<b>10</b> $\mu\text{g} \sim 10\text{Gy}$
p. 540	図25		